

西郷どん効果

宿陣跡資料館



29年度 過去最高1万4千人
 入館者例年千、2千人台から急増

延岡市北川町

西郷隆盛宿陣跡資料館(延岡市北川町俵野)の平成29年度入館者が1万4001人を数え、過去最高を記録した。1月にスタートしたNHK大河ドラマ「西郷どん」効果などが影響し、前年度比4.2倍の伸び。観光客の増加を見据え、施設改修などを進めている市や市教委は喜んでいる。

資料館は、西南戦争の延岡・和田越の戦いに敗れた西郷隆盛が、明治10年8月15日から17日夜まで宿陣した旧見玉熊四郎宅(県史跡・西郷南洲翁寓居跡)。ここで西郷は薩軍の解散布告を出して最後の軍議を開き、陸軍大

多くの入館者が訪れている西郷隆盛宿陣跡資料館(19日)

将の軍服を焼いたとき、館内には西郷愛用の遺品や、同戦争の関連資料が展示されている。資料館を管理する市教委北川分室によると、資料館は平成4年に開館。入館者は同5年度に6199人、同6年度に57

00人を数えたが漸減し、1000〜2000人台が続いていた。近年の高速道路整備や、平成30年大河ドラマ「西郷どん」の放送決定などで、28年度の入館者は33316人に増加した。

入館者1万4001人の内訳は、市内5859人(約42%)、市外8142人(同58%)。市外のうち県外は4500人で、6月から開始した県別調査では大分1514人、福岡606人、鹿児島502人、熊本390人な

ど九州内が多いが、関東(269人)や近畿(167人)をはじめ、全国から訪れている。

放送決定で29年度は前半から増加傾向だった。スタートした今年1月は1174人、2月は1754人、3月は通年並みの2150人と急増。今月は月半ばで約1200人が訪れ、今後さらに伸びそうだ。土日だけでなく、平日も多いのが特徴。バスで乗り入れる団体も増えている。

「西郷どん」効果による観光客増加を予想し、市教委は27年度から、のぼりの設置をはじめ、資料館の2階展示室に靴のまま上げられるよう階段・床の改築や、トイレや照明器具、音響ガイド案内、

空調設備の改修、説明パネルや防犯カメラの設置、展示品の充実などの事業を展開している。昨年4月にはリニューアルし、入館料も無料にした。加えて、市は、西郷隆盛が宿陣した同資料館を中心に背後の御陵墓参道、西郷菊次郎加療の地、敗れた西郷が鹿児島を自指して進んだ可愛岳などがある北川町俵野地区を西郷隆盛の魂に触れる空間エリアと位置付け、「西郷隆盛青空テーマ館 in 延岡」と銘打って、環境整備やプロモーション事業を展開している。

市教委北川分室は「大河ドラマによる入館者増は予想していたが、うれしい悲鳴。今後も利用者の

の声を反映し見る人に楽しんでもらうことも、展示品の充実にも努め、ピーター獲得に取り組みたい。子どもたちに延岡の歴史・文化を分かりやすく知ってもらう工夫をし、ふるさとに対する誇りにつながれば」と話している。



食の拠点、あす内覧会

4/21 延岡市が整備 かわまち交流館

午前11時から 午後誰でも参加可

延岡市の「食」の拠点施設として、市が整備した「かわまち交流館」の内覧会が22日午前11時から、同市大貫町の大瀬川左岸河川敷地（大瀬大橋北詰め近く）の同館で開かれる。施設の利用を検討している人をはじめ、誰でも自由に参加できる。

交流館は木造2階建て、延べ床面積は約593・48平方メートル。1階に大広間や窓際席、厨房（ちゅうぼ）、待合室など、2階に広間などを備える。客席数は最大で220席。昨年11月下旬に着工し、3月30日に完成

した。事業費は約1億700万円。食の拠点施設のほか、観光振興や市民交流の場として、年間を通してさまざまな施設を目指す。12月31日と1月1日を除いて貸し出しができ、やな漁期間中はあゆの食事棟として、それ以外は食のイベントや市民の健康増進など、さまざまなイベントなどに利用できる。

料金は原則有料。

交流館と同館下の河川敷広場の指定管理者は延岡観光協会。今月1日から利用申請の受け付けを始め、28日から利用が始まる。それに先立ち、市は22日午前10時から、落成式を開催。終了後、同協会主催の開館記念鏡開きが午前10時50分から、内覧会が同11時から午後3時ごろまで予定されて

いる。
内覧会への参加や、施設を利用する場合の申請方法などについては、問い合わせは延岡観光協会（延岡29・2155）。